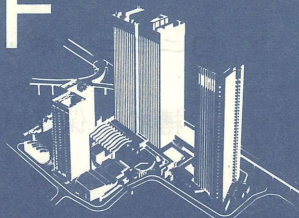


THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH WEEKLY REPORT



東京新南ロータリークラブ週報 November 27, 1987 No.57

今年度のターゲット (チャールズ C. ケラー)

ロータリアン--奉仕に結束--平和に献身

ROTARIANS--UNITED IN SERVICE--DEDICATED TO PEACE

○ 本日の予定

昭和62年11月27日 (第59回)

卓話

『私とバレエとの出会い』

福田 恭三 君/当クラブ会員 牧阿佐美バレエ副団長



◎先週報告

昭和62年11月20日 (第58回)

○卓話「米山奨学会月間 (10月)・ロータリー財団月間 (11月) にちなんで」

村川 優君/東京全日空ホテル 専務取締役

司会：田島 一郎 会長

♪ ロータリーソング：それでこそロータリー ソングリーダー：宮本 正祥君

ニコニコBOX 紹介：保森 登君

来客紹介：海外/村川 優君 国内/入沢 頼二君

出席状況 会員 41 名中 出席 25名 欠席16名

来客 12 名

(海外 1名 都内10名 地方 1名)

□プログラム委員会 沖委員長

当クラブ例会にて卓話をお願い出来る方を是非ご紹介願います

♣ お誕生日 吉田 用親君/11月21日

□RI情報抄録 (1987 10-11月号)

なぜポリオ・プラスを?

●毎年1億人の子供が生まれ、ワクチンで予防できる病気の予防接種を受けるのは、そのうち40パーセントにすぎません。

●ワクチンで予防できたはずの病気のため、毎年、350万人もの子供が心身障害者になってしまいます。

●六つの重要な小児病に対するワクチンを普及させれば、毎年、400万人の死亡を防げるのです。

□ニコニコボックス (11/20 順不同・敬称略)

樽松 保孝 (新宿RC) 卓話ご清聴有難うございました (11月13日預かり分)

村川 優 ①昨日、居住地葉山の町役場で古稀の祝い(70才)を頂きました
②本日卓話をきいていただきますので

山本 博一 息子の結婚式が無事すみまして 嬉しいけどふけこんだ感じです

四分一 勝 小西さん、昨日はお世話になりましたありがとうございます

保科 正 2回メイクアップでした

本日の合計 5件 36,000円

それぞれ、多額のご寄附を頂きました 有り難うございます。

○Visitors

海外RC Mr. J.E.Christopher (U.S.A. Concord)

川崎高津RC 西村 洋一

東京 RC 梅垣 哲郎

東京南RC 藤原 有三 東京羽田RC 佐々木森一 関本 忠弘

鈴木 治己 松島 義昭 大野 了三 H.Schmidt

鈴木 喜七

島村 明定

<東京新南ロータリークラブ12月行事予定>

12月1日(火) 火曜会 アーク森ビル 2F マエストロ 17:00~19:00

12月4日(金) 年次総会 (次年度理事選挙)
定例理事会 例会後 13:40~15:00

12月25日(金) 忘年家族会 「瑞雲の間」
登録開始 17:00 開会 17:30
ディナー 18:00 家族会 18:40 閉会 20:00
(昼間の例会はございません 夜間例会に変更となります)

善行

「善行がロータリーのすべてというわけではありません。善行とは、何か根底にあるものが表面に出てきたにすぎません。ロータリーの善行の下には、目に見えない力があります。これこそ善意という力です。」

—ポール・ハリス

ロータリーの創始者

クラブに役立つ方法をきっと
思い付くに違いありません!



10月が「米山月間」であり、11月が「財団月間」であるので、それにちなんだお話をします。

米山梅吉氏の名前はロータリアンの間ではよく知られていますが、新しい会員の中ではその詳しい経歴並びに米山奨学金（正式には財団法人ロータリー米山記念奨学金）の由来については詳しくは理解されていないと思います。正しい理解のために、『無我の人・米山梅吉』という本を是非一読されるようお勧めします。

昭和21年に米山梅吉氏が病没されてから間もなく、東京ロータリークラブの有志が米山氏の道徳を偲んで米山奨学金制度を設立されそれが今日まで続いているわけですが、米山氏の道徳と言われる、海外から日本へ留学する青少年の教育に対する援助という形による社会奉仕の精神は、米山氏の心の中にどのようにして芽生えたのであろうかという疑問を私は常に持っていました。

このたび前記、米山梅吉氏伝記を詳しく読んで初めて私にははっきり理解することが出来ました。彼がまだ47才の働き盛りの時に書いた「新隠居論」の中で、「功成り名遂げた者は、これを社会に還すべし」と言い切っている処に、米山氏の社会奉仕理念がはっきりと表現されていると思います。

一仕事けりがついたら、あとは社会のために尽そうという高邁な哲学を、まだ47才の身で持ち得たところに、米山氏の卓越した人柄が偲ばれるのであります。

その後、自分の主催する三井報恩会を通じて大きな社会奉仕事業を展開されるに当たっては、奉仕の精神を持つと同時に、それを実行し可能にして行くための財源を作り出した米山氏の叡知の賜物であることを吾々はよく理解しなくてはならぬと思います。

米山氏の理想と叡知を引き継いで、現在の米山奨学会制度を具体化し、本日の状況まで拡大発展させた当時の東京クラブの各位と、その後の日本のロータリアンの努力に対し、深い敬意を表するものであります。

○ 次週 の 予 定

昭和62年12月 4日（第60回）

卓 話 「漆の話 - ジャパンについて」

小西 皐也君 / 当クラブ会員 饒小西美術芸術社々長

ソングリーダー／山下

会長／田島一郎 副会長／佐藤定宏 幹事／川鍋達朗 会報／齊藤茂之

電 話：03-505-5976 （ファクシミリは同番で切り替え）